

あじさい



第 118 号

2023 年 9 月
日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>



和具大島のウチャマセンニュー調査

松阪市 西村 四郎

2022年度から、三重県レッドデータブック改訂委員会・鳥類専門部会に所属し、「三重県レッドデータブック 2025」の制定を目指して取り組んでいます。これは三重県（所管は農林水産部・みどり共生推進課）が主体となつての取組みで、2005年発行、2015年改訂と続き2025年が2回目の改訂で、野鳥の会三重が受託しています。

2023年6月17日に和具大島（志摩市）に渡つて、ウチャマセンニューの棲息を確認してきました。9時に和具漁港を出発し、船で和具大島まで渡してもらいました（所要時間15分程）。島に着くと直ぐにウチャマセンニューの囀りが聞こえてきました。小さな島で、堤防らしき石張りの高い所を歩いて観察しました。巣は2か所、雛らしき声が聞こえました。



ウチャマセンニュー

目次

和具大島のウチャマセンニュー調査	2
表紙の言葉	2
ウチャマセンニューとシマセンニュー	4
2023年6月 戸隠森林植物園宿泊探鳥会	6
事務局だより	7
戸隠高原宿泊探鳥会に参加して	8
「ツバメの見守り」ありがとう！	9
市民のアイドル!? カルガモの子育て	10
ほのぼの鳥さん Watching 「つばめのねぐら入り」	12
野鳥記録	14
釈迦ヶ岳に登つて鳥類調査をしました	18
2023 野鳥の会三重総会	18
探鳥会予告	20
探鳥会報告（2023年4月～2023年7月）	20
編集後記	24

表紙の言葉

シロハラ

松阪市 小野 新子

毎年1月の半ばになるとツグミの仲間が庭にやって来る。年によってツグミだったりマミチャジナイだったりシロハラだったり・・・4月半ばまで庭を占領するのは一種類だけで、今年はシロハラだった。掃き出し窓のブラインドを下し、室内から観察をしているとそれぞれに個性があつておもしろい。ツグミは小首をかしげ、紙面の下ののみみずをほぼ百発百中で探し当てる・・・マミチャジナイは、なぜか毎回立ち止まって室内を覗き込んでいく・・・シロハラが来ると落ち葉を掻きわける音ですぐわかるが、ガラス戸の前は大急ぎで走り去って行くのだ・・・。

四月の初旬、シロハラが“ギニューギニューチェツエツ”？と変な鳴き方をした後水浴びをした。唐木蓮の咲く枝で一心不乱に羽繕いをしている様子を見ていて発見！ずっと地味な鳥だと思っていたが、尾羽の両外三枚の先が真っ白だ。隠れた所にさりげなくおしゃれをしているシロハラが、何か素敵に見えてきた。それから間もなくして彼は庭に姿を見せなくなった。

「シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化」の連載は117号で終了しました。

8年間に渡りご愛読いただきありがとうございました。これまでの観察を振り返り、強く印象に残ったシギ・チドリたちの行動を次号に予定しています。（今井光昌）



和具大島（北側より島を見る）

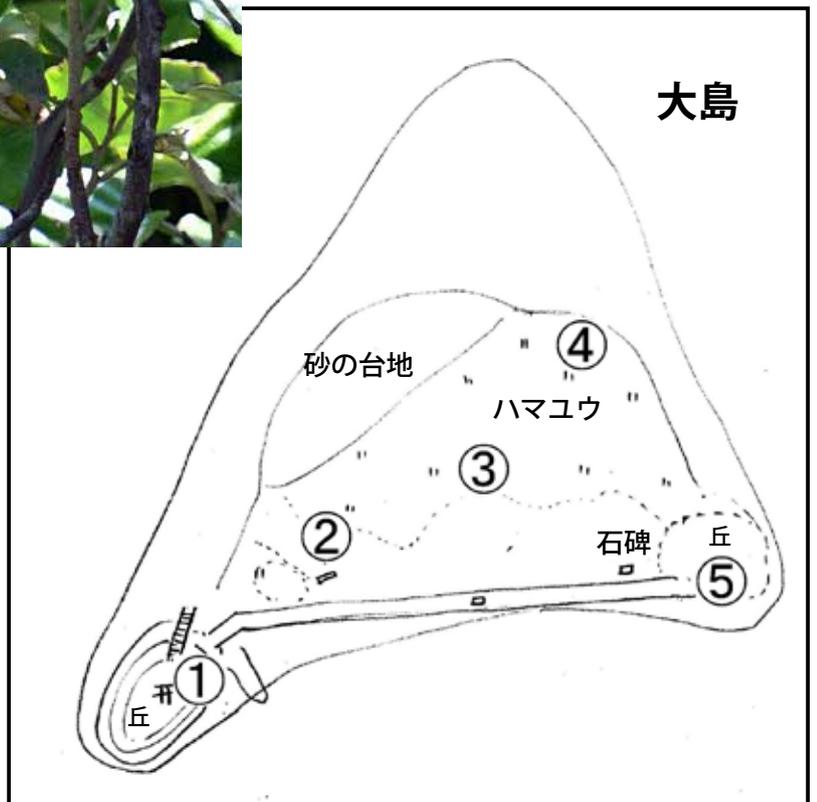


囀るウチャマセンニュウ

他の鳥は、ウミネコ、カワウ、ミサゴ（若）、カルガモでした。カルガモの巣があり、卵が11個確認できました。抱卵中でした。

植物は、ノブドウ、ハマナタマメ、ハマゴウ、ネコノシタ等で、三重県指定天然記念物「暖地性砂防植物群落」に指定されています。

調査に当たっては、地元の会員である中村みつ子氏に渡船の段取りや、所有者・管理者への連絡、ウチャマセンニュウの調査などいろいろお世話になりました。



和具大島 概要図

①～⑤の位置を中心に5ペア確認できました。巣は2か所、雛らしき声が聞こえました。

ウチャマセンニュウとシマセンニュウ



津市 平井 正志

はじめに

センニュウ類は我々本州中部に住むバーダーにとって馴染みの薄い鳥である。繁殖しているセンニュウ類は、離島でのウチャマセンニュウだけで、他にはおらず、越冬についてもつい最近オオセッカが少数越冬しているのがわかっただけである（西2023）。センニュウ類はウグイスとよく似て、地味で、囀る時以外はヤブの中で生活するので、目につきにくい。尾羽は中央の尾羽の長い、はっきりとした凸形であり、有効な識別点であるが、野外で尾羽をじっくり観察することは稀である。かつてはウグイス科に入れられていたが、最近の分類学ではセンニュウ科として独立した科が建てられている。日本で見られるセンニュウ類は第1表にあるように6種である。オオセッカもセッカの仲間ではなく、センニュウ類である（第1表）。

近年、ミトコンドリア、および核のDNA配列にもとづく研究によってセンニュウ属 *Locustella* は *Locustella* と *Helopsaltes* の2属に分けられており（Alström 他）、IUCN（国際自然保護連合）や、Bird Life International では属名として、*Helopsaltes* が使われている。ここではそれに従う（第1表）。*Helopsaltes* 属のセンニュウはいずれもシベリア東部、極東に生息する。また、北海道、サハリン、千島列島で繁殖するエゾセンニュウは大陸で繁殖するものと別種とされ、新たな種小名が与えられている。日本で広く用いられている学名と異なるので注意されたい。なお、ウチャマセンニュウはかつてシマセンニュウの亜種として扱われていた。今では独立して種とされている。ただし、上記の研究でもこの2種の差はわずかであり、最近まで遺伝子の交流があった可能性が示唆される（Alström 他）。以降、

この2種について述べる。

分布

シマセンニュウはオホーツク海沿岸、北部のマガダン、西部のシャンタル諸島、サハリン、カムチャツカ半島と、道南を除く北海道の沿岸部で繁殖する。冬は日本列島日本海側、中国沿岸部を通って、フィリピン、ボルネオ島で越冬する。

ウチャマセンニュウの繁殖地は上記シマセンニュウのそれよりも南で、知られている繁殖地で最も北はロシア、ウラジオストクのピョートル大帝湾の島嶼である。その他日本近海、太平洋側では伊豆諸島、三宅島など、三重、和歌山、宮崎県、鹿児島県の離島で繁殖する。日本海側では島根県中海、福岡県博多湾付近の島嶼、長崎県の離島などで、また瀬戸内海の離島でも繁殖する（第2表）。さらに朝鮮半島沿岸の島嶼で繁殖する。越冬地は香港、ベトナムトンキン湾沿岸が知られているが、詳細は不明。

識別

さて、両種の識別点であるが、囀りは異なる。繁殖地以外では囀らないので、形態による識別が困難である。手に持てば、初列風切の長さの違いで識別できる。この違いは翼式で表す。初列風切は内側から1, 2, 3と番号をふる。スズメ目の鳥では全部で10枚であるが、10枚目は極端に短く、通常見えるのは9までである。ウチャマでは各羽の長さの順は8>7>6>9>5であるが、シマセンニュウでは初列風切最外の9が長く、翼式は8>7>9>6>5あるいは8>9>7>6>5となる。嘴はウチャマセンニュウの方が長く、しっかりしているとされ、嘴峰長はウチャマでは18.5—21 mm、シマセンニュウでは

第1表 日本で見られるセンニュウ類		
和名	英名	学名
マキノセンニュウ	Lanceolated Warbler	(<i>Locustella lanceolata</i>)
オオセッカ	Japanese Swamp Warbler	(<i>Helopsaltes pryeri</i>)
エゾセンニュウ	Sakhalin Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes amnicola</i>)
シベリアセンニュウ	Pallas's Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes certhiola</i>)
シマセンニュウ	Middendorff's Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes ochotensis</i>)
ウチャマセンニュウ	Styan's Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes pleskei</i>)

注：オオセッカには Marsh Grassbird という英名もある。

15.5—17.5 mm とされている (Baker 1997)。いずれにせよ、わずかな違いであり、繁殖地以外で野外での観察や撮影画像でこの2種を識別することは至難である。

日本でのウチャマセンニュウの繁殖地

この2種のセンニュウ類の繁殖地はいずれも海沿いの灌木を混じえた草地である。営巣も当然灌木上か草の中であり、地上性の捕食者に狙われる。捕食者の近づきにくい区域を選んで繁殖していると考えられる。その点、離島での繁殖は理想的であろう。

日本でウチャマセンニュウがレッドリストに挙げられている県は12都県である(第2表)。これらの都県では繁殖している可能性があるが、静岡、徳島県での情報は把握できなかった。その他の都県もウェブ上の情報は断片的であった。ただ、福岡県ではかなり調査が行き届いていると考えられる(永田2008)。第2表ではネット上で把握できる情報を列挙したが、表に挙げた以外でも調査されている場所、離島があると思われる。いずれにせよ、繁殖地の多くは無人島である。

三重県でのウチャマセンニュウの記録

三重県では紀伊長島沖の耳穴島で1969年に繁殖が確認され(倉田1971)、1972年また1974年、いずれも少数が繁殖することが、樋口行雄により確認されている。島名は記載されていないが耳穴島であろう(著者不詳1987)。さらに、紀伊長島沖の大島では1982年5月16日、須川恒が

標識調査でシマセンニュウを捕獲、放鳥しているが、これは当時の分類では亜種、ウチャマセンニュウ、すなわち現在のウチャマセンニュウであろう。一方、和具大島(志摩市)での繁殖も、古くから知られていた。

筆者も当会会員の中村みつ子氏の案内で、2000年6月10日に和具大島と小島に渡島した。小島では2羽が同時に囀っており、2つがい繁殖の可能性が、大島では、西側の神社で1羽、中央で4羽、東側で1羽が囀っており、6つがい繁殖の可能性があった。今年、2023年の記録は本誌西村四郎の報告を見られたい。

その他、県内には鳥羽周辺など、多くの離島があり、海岸近くに草地がある離島では繁殖の可能性があろう。まとまった調査が、望まれる。

引用文献

Alström, P., Cibois, A., Irestedt, M., Zuccon, D., Gelang, M., Fjeldså, J., Andersen, M.J., Moyle, R. G., Pasquet, E., Olsson U. (2018) Comprehensive molecular phylogeny of the grassbirds and allies (Locustellidae) reveals extensive non-monophyly of traditional genera, and a proposal for a new classification. *Mol. Phylog. and Evol.* 127: 367-375.

Baker, K (1997) *Warblers of Europe, Asia and North Africa*. Christopher Helm, London.

BirdLife International (2023) Species factsheet: *Helopsaltes ochotensis*. Downloaded from <http://datazone.birdlife.org/species/factsheet/middendorffs-grasshopper-warbler-helopsaltes-ochotensis>

on 13/08/2023.

BirdLife International (2023) Species factsheet: *Helopsaltes pleskei*. Downloaded from <http://datazone.birdlife.org/species/factsheet/pleskes-grasshopper-warbler-helopsaltes-pleskei> on 13/08/2023

倉田 篤 (1971) 紀伊長島の鳥類 紀伊長島町 紀伊長島

永田尚志 (2008) ウチャマセンニュウ *Bird Research News* 5(5)

西 教生 (2023) 三重県南部で越冬するオオセッカ. *しろちどり* No.116: 2-3.

小川次郎・渡辺奈央・松井宏光・大森浩二 (2016) 瀬戸内海忽那諸島およびその周辺島嶼部における絶滅危惧種ウチャマセンニュウ *Locustella pleskei* の生息状況. *Strix* 32: 125-133.

著者不詳 (1987) 三重県における鳥類分布・生息に関する調査. 三重県農林水産部林業事務局 緑化推進課 津

東京都	伊豆諸島 三宅島など
静岡県	不明
三重県	和具大島、おそらく紀北大島でも繁殖、
和歌山県	新宮市 鈴島、孔島
徳島県	不明
愛媛県	松山市小安居島のみで生息が確認されていたが、近年他の6島で繁殖確認
島根県	中海鳥獣保護区
福岡県	福岡市博多湾の離島大机島、志賀島属島沖津島、宗像市沖ノ島など
長崎県	平戸市 阿値賀島。
熊本県	牛深沖ノ島
宮崎県	日向市細島
鹿児島県	指宿市 田良岬の離島、知林島